

令和7年度福島県歴史資料館収蔵資料展

SUIGUN-Line

水郡線応援

東白川郡の 古文書

2025年

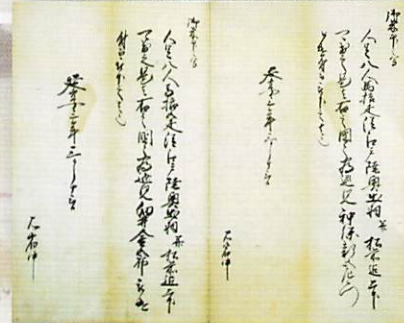
8月9日(土)

▶11月24日(月)振休

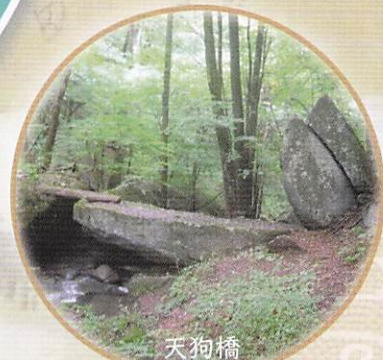
入館無料

— 鮫川村編 —

右上、延享3年(1746)8月11日付 御巡見様御先觸写(部分、水野ユキ家文書16)
右下、慶応2年(1866)3月付 田野作村・渡瀬村境絵図(部分、渡瀬区有文書101)
左上、寛政5年(1793)子孫繁昌手引草(部分、中川西金之助家文書191)
左下、正保4年(1647)8月3日付 奥州棚倉領白川郡赤坂東ノ村畑方水帳(部分、鈴木道郎家文書146)
背景、天保8年(1837)赤坂東野村絵図(部分、鈴木道郎家文書1069)



富田薬師堂



天狗橋



トピックス展 「ふくしまの、いまから 80 年前」

同時開催

福島県歴史資料館 展示室

(とうほう・みんなの文化センター内)

〔開館時間〕 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

〔休館日〕 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌火曜日)

〔解説会〕 8/9(土)・10/5(日)・11/8(土)

各回とも午後1時30分より、50分程度担当者が解説します。

〔主催〕 公益財団法人 福島県文化振興財団

〔協力〕 水郡線活性化対策協議会、鮫川村



福島県歴史資料館
〒960-8116 福島県福島市春日町 5-54

TEL: 024-534-9193
FAX: 024-534-9195
E-mail: history@fcp.or.jp

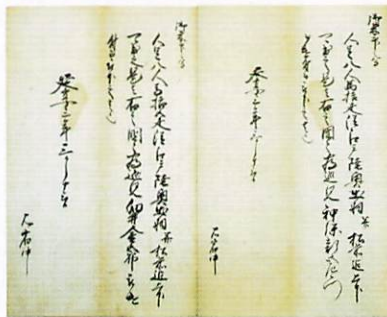
Q 福島県歴史資料館

検索

ホームページ X(旧Twitter)



水郡線全線開通より90年が経過し、水郡線活性化を応援するため、当館に収蔵されている水郡線沿線地域（東白川郡）ゆかりの古文書をシリーズ展として取り上げます。第2弾となる本展示では、江戸・明治時代を中心とした鮫川村にゆかりのある古文書を展示し、棚倉藩による検地、塙代官寺西封元の小児養育政策、幕府巡見使を迎える村の様子、隣接する村との境争論など、当該地域の歴史・文化を紹介します。



御巡見様御先觸写
(部分、水野ユキ家文書 16)

延享3年（1746）の奥羽松前巡見使は、山口直意・神保長勝・細井勝尚で、巡見使には人足や馬が割り当てられました。宝木村（鮫川村大字西山字宝木）では8月11日に巡見使一行を迎え入れ、宝木村名主水野家を御休所としました。

子孫繁昌手引草
(部分、中川西金之助家文書 191)

天明の飢饉により疲弊した農村で行われていた子間引きや墮胎の悪習を戒めるため、寛政5年（1793）に塙代官の寺西封元が出版して領内の全戸に配布しました。領民が理解しやすいように例え話や方言を交えて記されています。



奥州棚倉領白川郡赤坂東ノ村畑方水帳
(部分、鈴木道郎家文書 146)

棚倉藩主内藤信照は、正保4年（1647）に領内の村々の総検地を実施し、各村別に田・畑・屋敷地を丈量し、一筆ごとに田畑の等級と面積、生産高、生産者を確定しました。赤坂東ノ村（鮫川村大字赤坂東野）の畑の検地帳です。

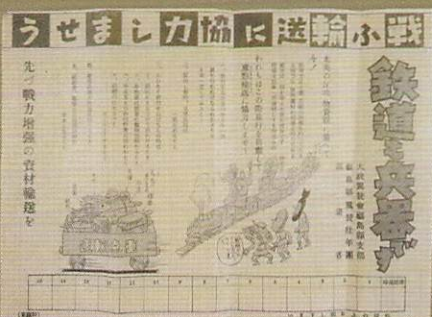
田野作村・渡瀬村境絵図
(部分、渡瀬区有文書 101)

渡瀬村（鮫川村大字渡瀬）と田野作村（塙町大字田野作）との境争いをしていましたが、慶応2年（1866）3月に村境を定めるために作成された絵図です。境の目印として2箇所の境石のほか、一之塚から六之塚まで築きました。



トピックス展 「ふくしまの、いまから 80 年前」

アジア・太平洋戦争終結から今年で80年を迎えることにちなみ、当時の公文書やビラ、はがき、出版物などの展示を通して、戦時下のふくしまにおける暮らしを紹介します。



〔隣組回覧〕
(湯ノ花区有文書 208)

米・英の攻撃に備え兵器や軍需資源の鉄道輸送を優先するため、旅行や贈答品の配送を控えるよう県民に求めた回覧です。



〔軍事郵便〕
(渡部八郎家文書)

東北124部隊所属の渡部利男が幹部候補生に合格した旨を伝える軍事郵便で、漫画家小野寺秋風がイラストを描いています。